

## 発刊にあたり(2)

編集作業初期の2014年2月から現在までの自動車業界を少し振り返ってみると

- ・日本ではSIP(内閣府：戦略的イノベーション創造プログラム)や産官学の英知を集結したAICE(自動車用内燃機関技術研究組合)の設立による内燃機関研究の加速.
- ・ドイツVW社でのディーゼルデバイスによるディーゼル排ガス問題および日本における燃費問題.
- ・AI(人工知能,特にディープラーニング)技術による自動運転への期待と競争激化.

など、是と非双方が話題になるとともに、世の中の変化が如実に反映されており、自動車業界は今まさに変革期であると感じさせられます。

このように、自動車技術ほど人々の日常生活に密接に関わり、仕事での使用や個人での移動等の多岐に渡る恩恵を相互に享受している分野はなく、今後も新しい価値観や役割に基づく機能追加をし、たゆまなく進化していくのではないのでしょうか。

本編が取り扱っているパワートレインの試験・評価では、世界的な環境課題への取組みに向け、低燃費技術や信頼性をより正確に測ることを狙いとするとともに、今後の10年にも通用する、概念まで含めた技術の包括的な考え方にも重きをおき各章の改定を行いました。

次世代を担う読者の皆様が、本編から得られた知識を基礎としパワートレイン技術のみならず自動車技術および機械工学の研究開発に貢献されることを願っております。

最後になりましたが、本編の執筆に携わって頂いた各分野の専門家の皆様、構成から完成までご尽力頂いた委員の皆様と事務局に、深く感謝の意を表します。

2016年9月

試験・評価(パワートレイン)編 編集委員会

委員長 鶴見 真伸